

歴史探訪

クラブ

History Inquiry Club

其の
190



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

渥美半島の農業の始まり

本市は農業産出額日本一を誇る農業のまちですが、渥美半島ではいつごろから農業が行われていたのでしょうか。

そもそも日本では、縄文時代にはアワやキビなどの雑穀が作られていたことが分かる資料が見つかっており、なんらかの栽培が行われていたといわれています。その後、弥生時代に本格的な稲作が行われるようになります。本市では伊川津貝塚(伊

川津町)で出土した縄文土器の表面からアワの圧痕が見つかっていました。しかし、この土器は中部高地でよく出土するため、持ち込まれた可能性があり、縄文時代終わりに雑穀栽培をしていたかは分かっていません。

この他、小森遺跡(中山町)からは弥生時代の石包丁が見つかっています。この石包丁は穀物の穂を摘み取る道具ですが、今のところ1点しか見つかっておらず、これも弥生時代に農業が行われていたという決定的な資料とはなっていません。



▲小森遺跡から見つかった石包丁

古墳時代になると渥美半島で農業をしていたことが確実に分かる資料が見つかっています。サンテパルクたはらのある芦ヶ池北側に位置する山崎遺跡から出土した木製品です。この遺跡は、古墳時代から奈良時代を中心とした集落遺跡で、土師器・

須恵器、製塩土器の他に沢山の木製品が出土したことで有名となった遺跡です。通常、土の中にある木製品は腐って無くなってしまいましたが、この遺跡は芦ヶ池の池底にあったため、腐ることなく沢山見つかりました。

出土した木製品は工具、農具、編み具、紡織具、馬具、祭祀具などに多岐にわたっています。農具では鍬、鋤、柄振、天秤棒、横槌、竖杵、臼、田下駄などが見つかっており、古墳時代のものがほとんどでした。山崎遺跡では竖杵や臼から穀物(イネ)作りが盛んに行われ、鍬や鋤などを使用して田畑が耕作されていたと考えられます。

山崎遺跡の調査結果から、芦ヶ池の周辺は水に恵まれ、古墳時代から奈良時代にかけて集落が営まれ、近くには田畑が広がり栄えていたことが考えられます。

このように渥美半島では古くから人々が生活し、農業を行ってきました。この



▲山崎遺跡から出土した木製農具

農業の始まりである小森遺跡や山崎遺跡などで出土した遺物は、田原市博物館企画展「渥美半島の農業の歩みと豊川用水」で展示します。ぜひ、遺跡で出土した農具を含め、渥美半島の農業の歩みを見に来てください。

(清水)